

令和 5 年度 第 3 回石狩市社会教育委員の会議 議事録（要約）

日 時 令和 6 年 3 月 25 日（月） 15 時 00 分～17 時 10 分

場 所 石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者

[出席委員（11 名）]

木村 純・大橋 修作・出口 善久・山田 治己・船木 幸弘・高橋 容子

永田 志津子・高橋 典只・納谷 眞智子・坂見 明信・大内 さつき

[欠席委員（4 名）]

渡邊 真奈美・二上 朋子・近藤 宏・松本 史子

[事務局（5 名）]

教育長 佐々木隆哉・次長（社会教育担当）伊藤 学志 社会教育課 課長 斉藤 晶

主査 栗谷 幸介・主事 高津 柊

[傍聴者（2 名）]

（事務局）

只今から令和 5 年度第 3 回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。初めに、石狩市教育委員会教育長、佐々木隆哉より、ご挨拶申し上げます。

（佐々木教育長）

皆さん、こんにちは。

本日は、ご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。

社会教育委員の任期は、令和 4 年 6 月からの 2 年間ということで、今年の 5 月末をもって満了となります。順当に行けば、本日が任期最後の会議ということですので、一言御礼のあいさつをさせていただきます。

この 2 年間には石狩市芸術文化振興奨励補助金交付対象事業をはじめといたしまして、老朽化が進み、対応を検討しておりました公民館樽川分館の廃止など社会教育に関する重要事項の決定にさまざま関与いただいたということをこの場を借りて御礼申し上げます。それ以外にも、配布資料にもありますが本市のコミュニティ・スクールですとか、地域学校協働活動の実態などについてのヒアリングなど、社会教育法の中で言われている社会教育委員としての調査研究活動も積極的に行われていることにつきましても敬意と感謝を申し上げます。

本日の午前中、石狩市の地域学校協働活動の令和 5 年度の報告ということで、コーディネーターの方がお見えになり、いろいろとお話を聞かせていただきました。

市内のコミュニティ・スクールでの取り組みについては、令和 2 年度に石狩八幡小学校、厚田学園が先行してスタートして、令和 3 年度からは市内全校で導入され、活動も当初はコロナ禍の影響も受けておりましたが、昨年のコロナ感染が 5 類に移行してから、徐々に協働活動が進められてきております。本日いただいた報告書を見ても学校の教育活動に地域や保護者の方々関わっていただいているということで、そのやる気やコミュニケーション能力というのが非常に高

まっているということでした。それと同時に、参加されている方々の達成感ですとか、やりがいといったものも非常に高まってきているので参加している方からも好評だということが書いてありました。ただ、実際に熟議に基づいてこういったことをやりましょう、といったところまではまだ至っていないところも多いといった印象です。また、旧来型の学校支援、花壇の整備といったところを報告しているといったところもあります。やはり、地域学校協働活動における「意識のばらつき」が学校によってまだまだみられるといった課題も指摘をされておりました。こういったところを埋めていくというのがまだまだ我々がやらなければならないことだと思っております。

教育行政執行方針というのが、三月の半ばごろに予算などと一緒に出ますけれども、その中で教育振興基本計画というものがあまして、その中で示している「目指すべき地域の姿」というのは、学校で地域の方々、保護者の方々が絡んだ中で子どもたちが幸せだと思えるような教育を実現することで、学校に関わっている方々のウェルビーイングが高まっていけば、それが地域の中で循環して行って、子どもや地域の幸せ、さらに年代を超えた幸せにつながっていくということをやりましょうということが今の日本の教育の目指す形であり、石狩でも同様に進めていきたいということでご紹介いたしました。

先ほどご紹介したコーディネーターの方の報告を聞いて、少し芽らしきものは見えたのかなという気がしておりますので、この先もっともっと進めていければと思っております。

本日の会議では、令和5年度実施事業の振り返りと、次年度以降の方向性などについてご議論いただくことと聞いております。是非とも活発な議論を展開していただいて、石狩市の社会教育発展のために多くのご意見を賜ればと存じます。

最後になりますが、あらためて2年間の活動について感謝を申し上げますとともに、委員の皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げて、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

続きまして、木村委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(木村委員長)

年度末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。

私が2月から3月にかけて地学協働のヒアリングで3回ほど石狩に来たんですけれども、最初は札幌よりも雪が多いなという印象だったのが、最近ではすっかり石狩の方がきれいに雪が解けて歩きやすくなったようで、初めて春が近いなといった感じがいたしました。

この後ヒアリングのご報告もさせていただき、出口委員のコミュニティ・スクールと地学協働のお話もごさいますけれども、このヒアリングを通じてますます社会教育がとても大事ななということを実感しております。私たちが担う役割の重要性を改めて感じております。本日もよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。では、これ以降の進行については、委員長をお願いいたします。

報告 1 令和 5 年度事業実績報告について

(木村委員長)

では、会議次第にしたがって進めさせていただきます。まず最初に報告に入ります。令和 5 年度事業実施報告について、事務局からお願いいたします。

～事務局より説明～

(木村委員長)

只今ご説明をいただきました内容について、何かご意見・ご質問のある方はいらっしゃいますか。

特に無いようですので、次の議題に移りたいと思います

議題 1 令和 6 年度主要な社会教育事業の概要（案）について

(木村委員長)

議題に入りたいと思います。まず、令和 6 年度主要な社会教育事業の概要（案）について事務局から説明をいただきます。

～事務局より説明※主に地域学校協働活動推進交付金について～

(木村委員長)

只今の説明について、何かご質問などある方はいらっしゃいますでしょうか。

私から質問なのですが、地域学校協働活動推進交付金の例が資料に記載されていますけれども、基本的には市立学校に助成する、ということだと思います。ですが例の②は地域の思いや願いとして「NPO 法人が主催する手話講座に、中学生を参加させたい」となっています。なので、子どもたちが NPO 法人が主催する手話講座に参加する参加料に使用するという方法で学校に助成するということになると思います。つまり、行政だけでなく市民活動についても学校が共に行うことについては対象になるという理解でよろしいのでしょうか。

(事務局 齊藤)

はい、そのようなイメージで間違いありません。

(木村委員長)

わかりました。ほかにご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(坂見委員)

学校現場の代表として、地域課題解決学習や地域人材育成、そのほかなど資料に記載されていますが、(資料2-2)北海道の報告書ですと、ジャンルが5つに分かれておりまして、この資料で説明などされるのであれば、そちらにそろえた方が学校現場も混乱しないのかもしれないと思いました。また、同資料内で「総合的な学習の時間」という言葉については、若干危うさを感じます。「総合的な学習の時間」となると子どもたち一人一人が探求課題を持って課題の解決のために総合的な学習の時間を通して、子どもたちが探究的に学んでいくということになるのですが、この資料内では短く文をまとめた為か、総合的な学習の時間において盆踊りを学んだだけということになってしまっています。この文面が学校現場において認識の違いを生んでしまうようなことは避けなければならないので、総合的な学習の時間、という部分を削除するかももう少し補填すべきかと感じます。

(木村委員長)

ありがとうございます。ほかにご質問などある方はいらっしゃいますでしょうか。

(出口委員)

(地域学校協働活動推進交付金について) この事業を行った学校に対しては、報告書を求めるのでしょうか。

(事務局 齊藤)

石狩市の補助金等の規則に従って計画・申請の段階から報告まで行う予定であります。

(木村委員長)

ありがとうございます。ほかにご質問などある方はいらっしゃいますでしょうか。

質問は以上ですので次の議題に移らせていただきます。

2 令和6年度社会教育委員の取り組みについて

(木村委員長)

以前の会議でお話した通り、まずはヒアリングから始めるということで地域学校協働活動に関わっておられる社会教育委員の方にお聞きして共有し、議論を深めていきたいということでした。

それでは、そのヒアリングに関してご報告いたします。

～資料説明（社会教育委員へのヒアリングの中間報告）～

全体で感じたことは、地域・学校ごとにそれぞれ個性があって、地域の歴史や現状と結びついた取り組みになっているということです。

何かお伺いしたことで補足などある方はいらっしゃいますでしょうか。

(納谷委員)

様々な学歴の方がいらっしゃいますが、新しいつながりや、お話を聞くことが出来てありがたいです。

(山田委員)

社会教育を進めるには、様々な社会問題によって目まぐるしく変化していく状況を把握することが最も大切であると感じています。AIによる教育や働き方問題、部活動の問題など、地域や学校に関わる問題がもうすでに起きています。その現状を把握したうえで社会教育を進めるべきだと思います。

(坂見委員)

理想は地域をどう蘇生するかと言ったときに、ゴールを共有し、地域の人たちに理解をしていただくことが大事であり、地学協働推進委員と足並みをそろえ、地域を巻きこんでいき、バックアップすることが社会教育委員の役割なんではないかと思います。

(木村委員長)

ゴールを共有することも大事ですが、対話をして様々な意見を言い合い、お互いを理解することが社会教育として大事であると思います。そのような中で、学びと対話の輪を作ることを目指していきたいですね。それぞれの地域には、地学協働を目指している方が一定数いて、特に厚田・浜益のほうが、旧石狩市に比べ地学協働が上手く成り立っており、地域の歴史やコミュニティの現状を踏まえ、それぞれの地域に応じて考えていかなければと思います。

(坂見委員)

我々の価値観だけで進めていくと、これからの石狩を担っていく若者たちとの考えと、ズレが

生じてくる可能性があるのではないかと思います。ある程度統計的な人数を集め、意見を集める必要があるかと思います。

（木村委員長）

若者たちが中心となるような働きかけが大切ですね。

（船木先生）

話し合うとか意見を聞くとか、一人ひとり立ち位置を認識することが大切だと思います。戦術を考えるときに、目先に追われてしまいがちですが、戦略を実践するためにどうしていくかを考えることが戦術であり、それぞれが、自分の役割につくす必要があります。

何をを目指すのかという共通のゴールを持ち、ある程度同じ夢を描いていて、その為に何が出来るか、手探りでも試行錯誤していくことがいいと思います。

（木村委員長）

引き続きヒアリングを続けていきますが、現段階で中間報告として、今お話ししていただいた意見を踏まえ、まとめていきたいと思っています。

その他 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について

～出口委員より説明※別紙資料参考～

（木村委員長）

地域活動をどのように促進していくかについて、いろんな考え方をお持ちであると思います。

それでは、二年間の任期お疲れ様でした。